

前田一步園財団のエゾシカ対策について

罠いワナを用いたエゾシカの生体捕獲を
中心とした対策を実施して

(一財) 前田一步園財団

1. (一財)前田一步園財団について

・森林の概要



当財団の管理地は、約3,892haです。そのうち山林は、約3,584haです。

2. 前田一步園財団の森づくりについて

前田一步園 歴代園主の遺した言葉

- ・この山は、伐る山から観る山にすべきである。
(初代園主 正名)
- ・阿寒を乱開発せず、個人の相続を放棄し、
自然を永久に残すように。(二代目園主 正次)
- ・自然を保護するのではなく、大きく自然の保護
を受けている。
自然は最高の師なり (三代目園主 光子)

2. 前田一步園財団の森づくりについて

目標とする森林の姿

＜目指すは原生の森＞



当財団は管理森林において、原生の姿に出来るだけ近づけることを目標に、森づくりを進めています。

3. エゾシカ被害とその対策について

森林被害の実態



被害の概要

昭和59年頃から森林内のエゾシカ生息数が急激に増えはじめ、それに伴いエゾシカによる樹皮食害が拡大しました。

針葉樹では“イチイ”、広葉樹では“ニレ属(オヒョウ、ハルニレ)”の被害が甚大でした。

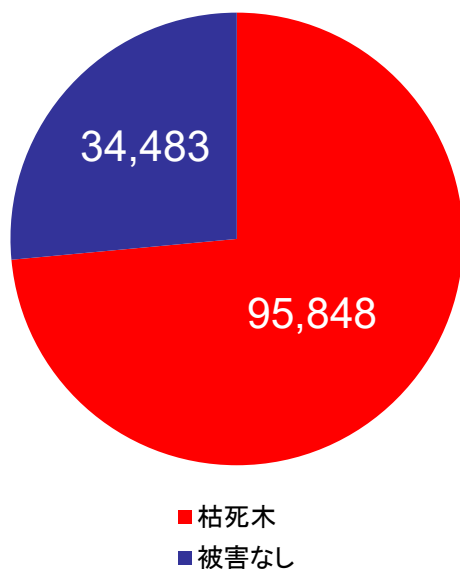
ニレ属は、所有山林内の73.5% (本数割合) が被害を受けました(H4～H8の被害木調査結果)。

(H10年撮影)

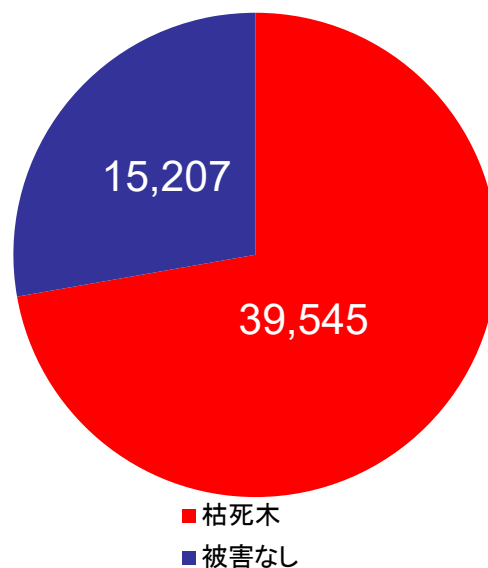
3. エゾシカ被害とその対策について

森林被害の実態

ニレ属被害本数(本)



ニレ属被害量(m³)



ニレ属被害の概要

本数では、130,331 本中95,848本(73.5%)、材積では、54,752m³中39,545m³(72.2%)の被害が発生し、危機的な状況に陥りました。(H4～H8の被害木調査結果)

3. エゾシカ被害とその対策について

これまでの取り組み

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
対策の内容	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 0	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 0	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
被害木調査	●	●	●	●	●																											
被害木整理	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																				
ネット巻き				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
被害木 伐倒給餌						●	●	●																								
ビートパルプ ブロック給餌								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
有害駆除								●	●	●	●	●	●																			
生体捕獲 (罠いワナ)													●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

3. エゾシカ被害とその対策について

被害防止対策① 食害防止ネット巻き



一番確実に被害を防止できるが、全立木に巻くことは極めて困難

3. エゾシカ被害とその対策について

被害防止対策② ビートパルプ ブロック給餌



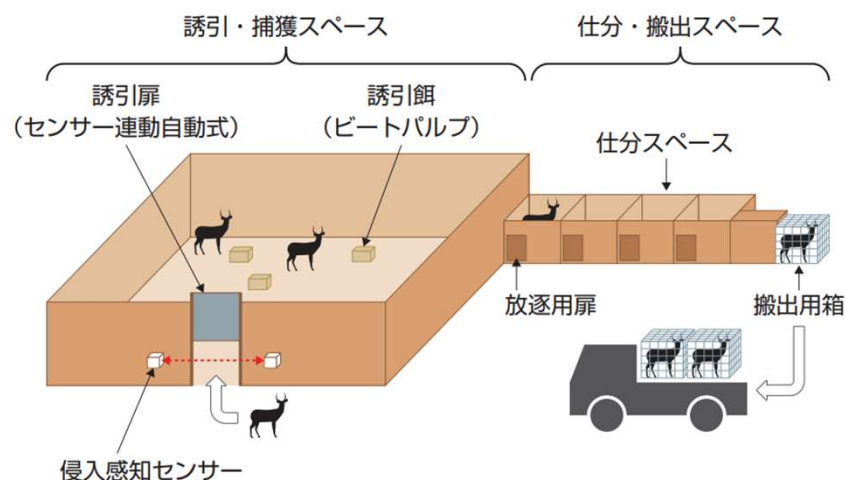
令和6年度は、管理山林内で6箇所の
給餌場にて給餌。
給餌により、立木への食害を低減。

給餌事業 実施箇所



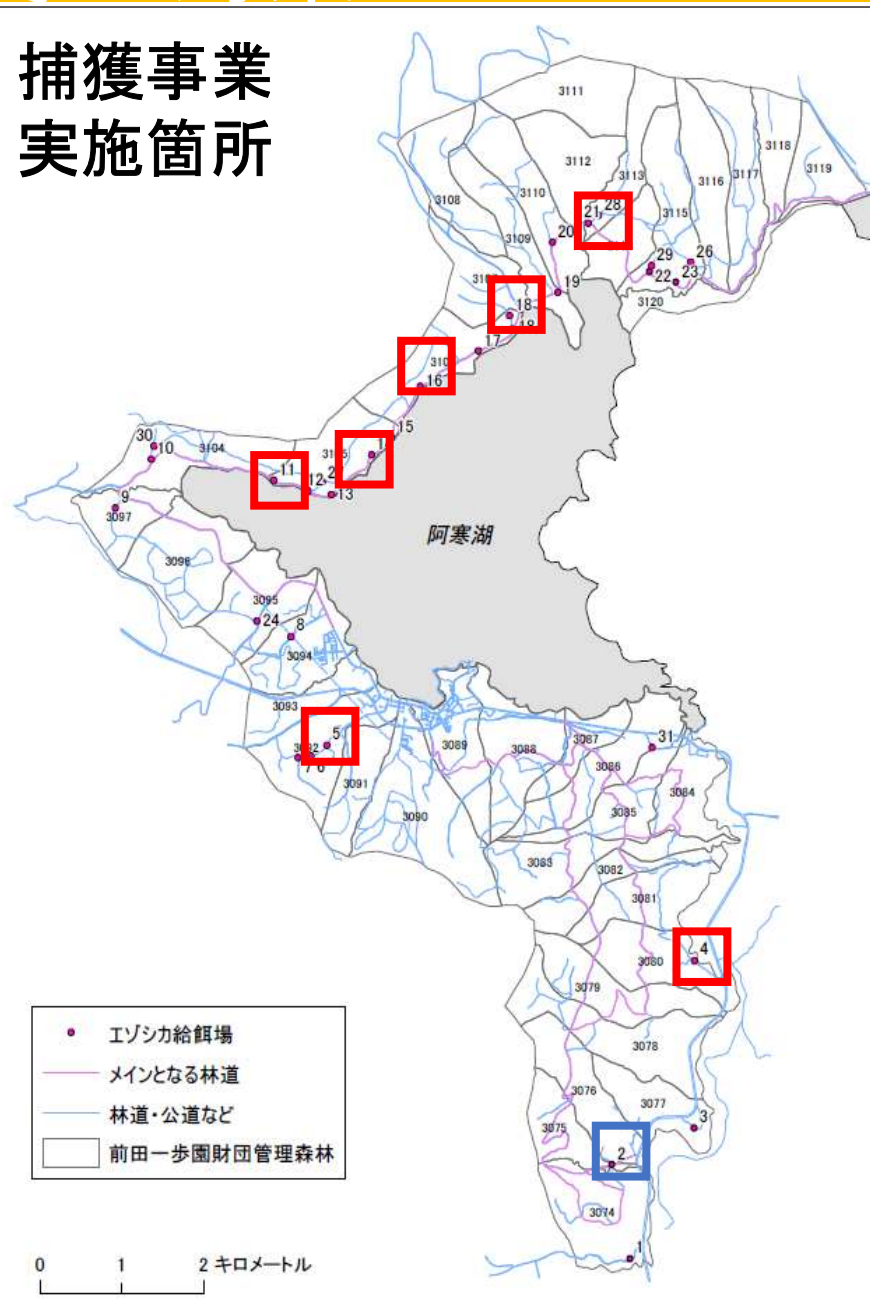
3. エゾシカ被害とその対策について

被害防止対策③ 罠いワナによる 生体捕獲



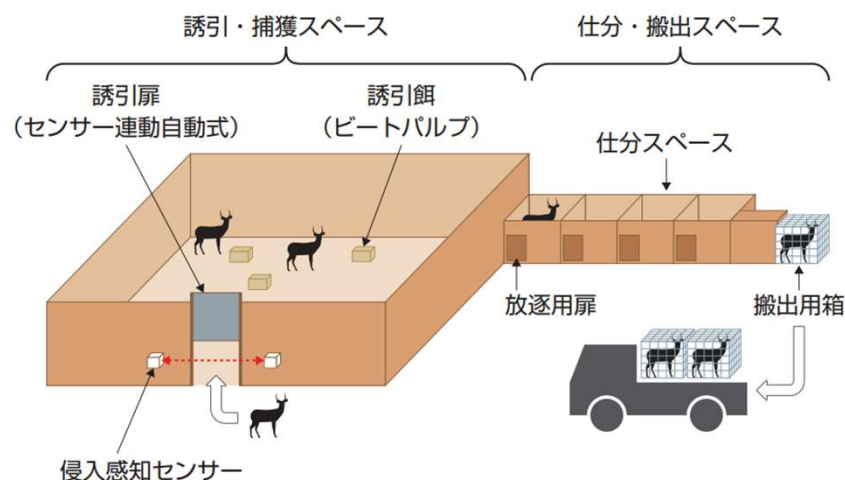
令和6年度は、管理山林内で7箇所の当財団事業ワナと、1箇所の北海道釧路総合振興局事業のワナにて実施。

捕獲事業 実施箇所



3. エゾシカ被害とその対策について

被害防止対策③ 囲いワナによる 生体捕獲

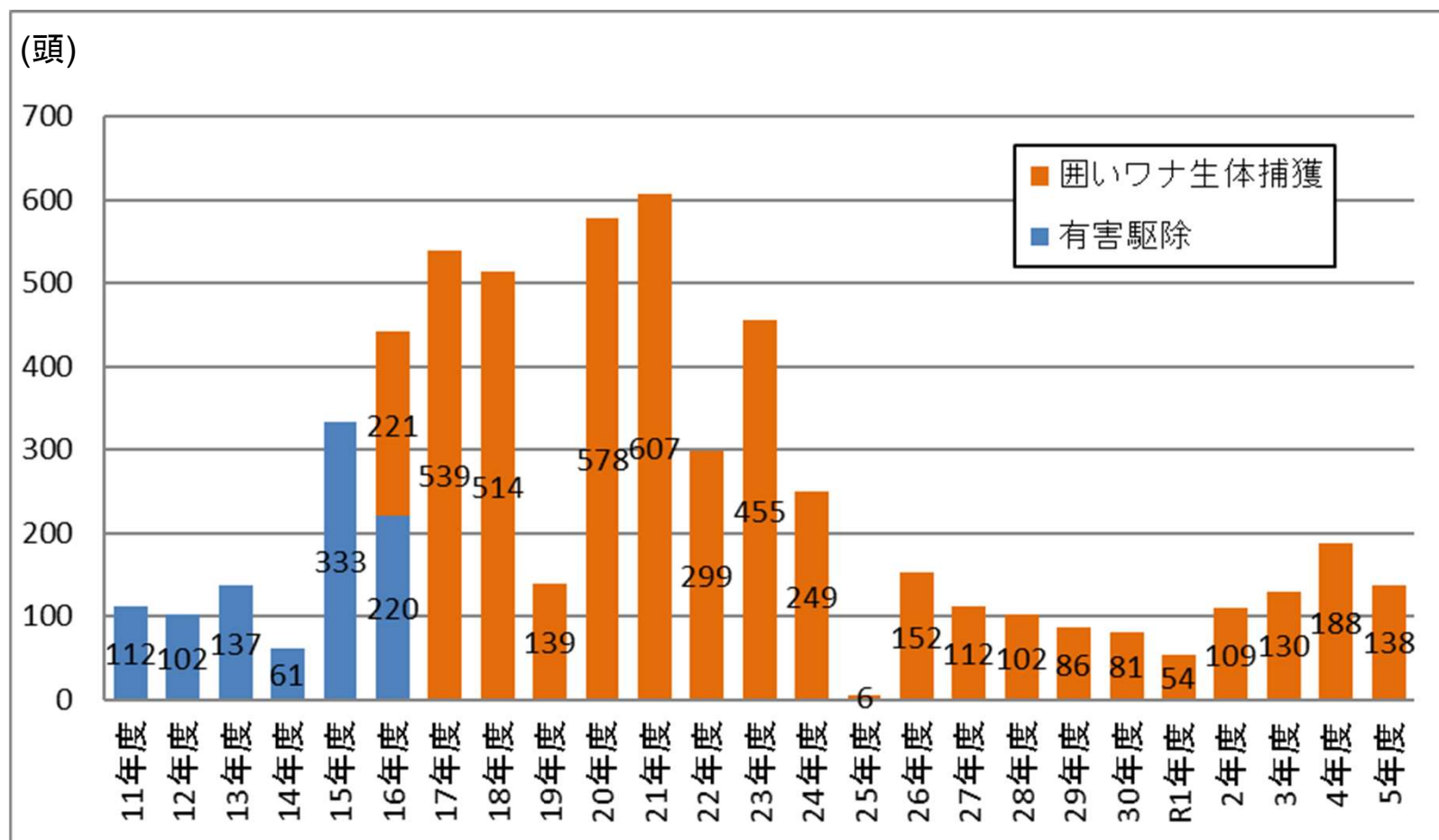


令和6年度は、管理山林内で7箇所
の当財団事業ワナと、1箇所の北海道釧
路総合振興局事業のワナにて実施。



3. エゾシカ被害とその対策について

被害防止対策（有害駆除・生体捕獲）



猟銃による有害駆除数（H11年度～H16年度） : 965頭
罠いワナによる生体捕獲数（H16年度～R5年度） : 4,759頭

4. 現状の課題と今後の対応

現状の課題

いまだに抑えられない森林被害（立木の食害）

⇒ このままでは、母樹のない森林になる危機

いまだに抑えられない森林被害（幼樹の食害）

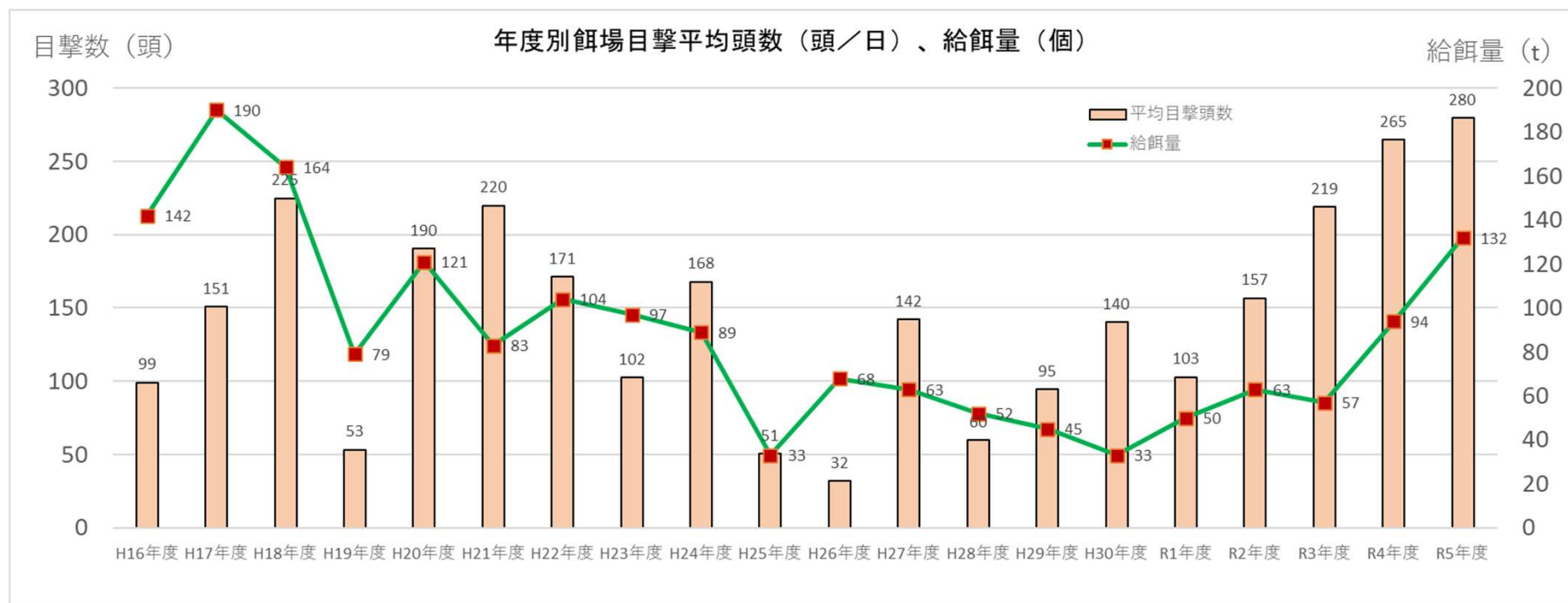
⇒ このままでは、後継樹のない森林になる危機

一組織での対応の限界

⇒ 広域連携による捕獲対応が必要（国・道・民間）

4. 現状の課題と今後の対応

目撃数の推移と被害防止対策 (ビートパルプブロック給餌)



R1(2019)年度から目撃頭数は増加。R4(2022)年度から過去最高を更新中。R5(2023)年度の平均目撃数は280頭(/回)。

目撃頭数の増加に対応し、給餌量を増やし、食害防止対策を強化。

(東京農業大学(オホーツクキャンパス)、前田一步園財団実施餌場におけるエゾシカ個体数調査データより作成(冬季間の餌場での目撃数の平均値(調査時目撃頭数総計／調査回数)))

4. 現状の課題と今後の対応

被害防止対策(ビートパルプブロック給餌)



(H17年撮影)

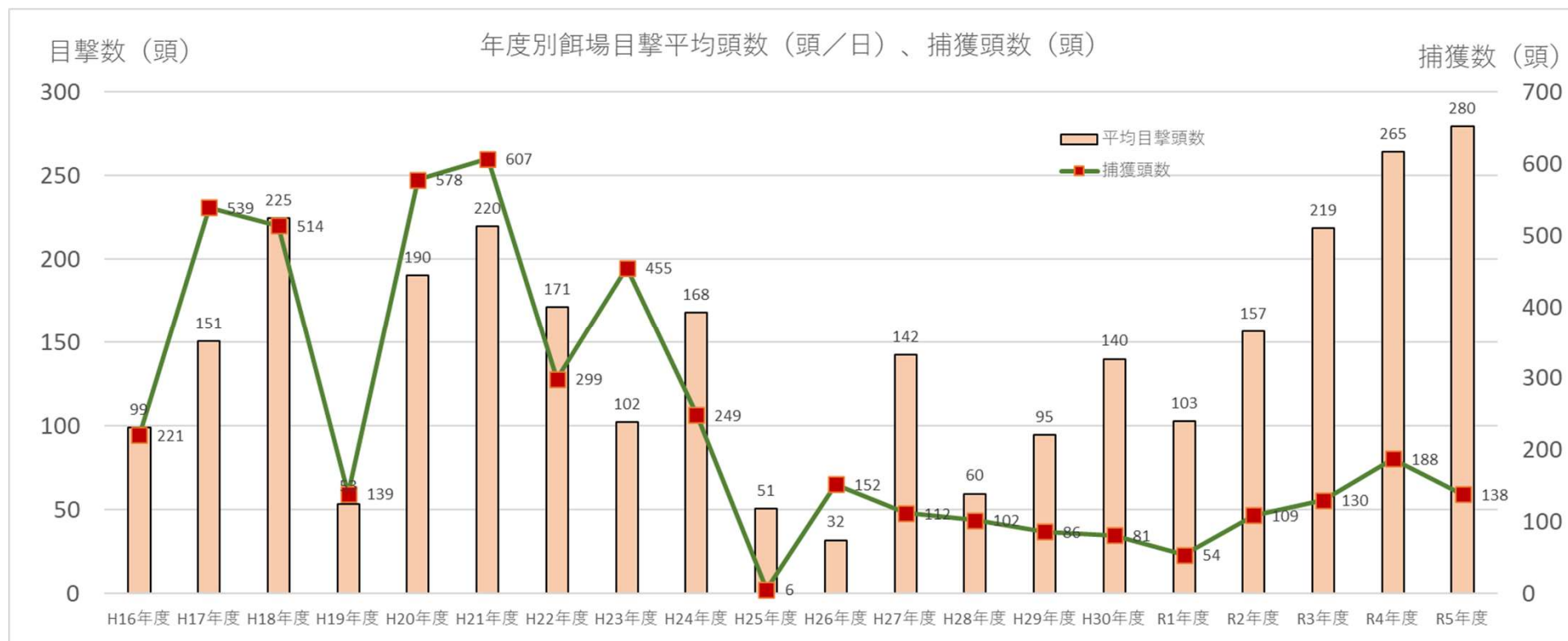


(R7年撮影)

令和6年度は、管理山林内で6箇所の給餌場にて給餌。

4. 現状の課題と今後の対応

目撃数の推移と被害防止対策 (罠いワナによる生体捕獲)



目撃頭数の増加に対応し、ワナ数を増やし、食害防止対策を強化。

R1:2基 ⇒ R2~3:3基 ⇒ R4:5基 ⇒ R5:6基

4. 現状の課題と今後の対応

被害防止対策(囲いワナによる生体捕獲)



餌場のシカ誘引状況
(数十頭等誘引)

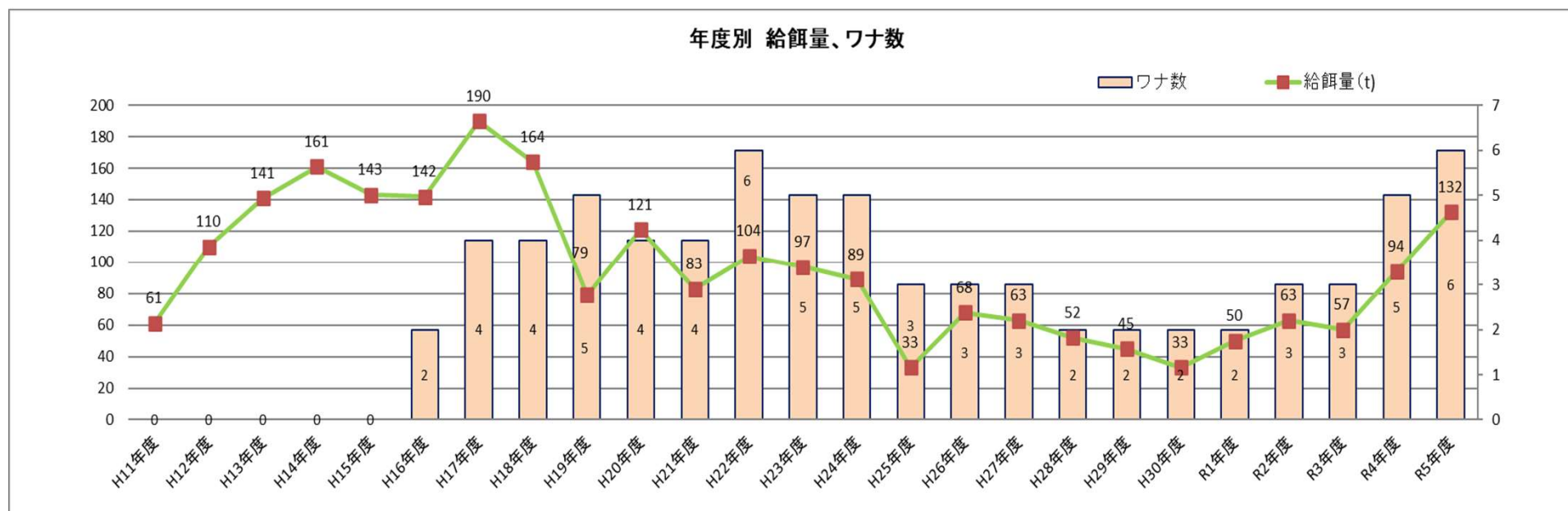


ワナ付近の誘引状況
(数頭から十頭程度誘引)

令和7年度は、増設に伴い北部地区において餌場を廃止し、ワナ内に侵入しなければ餌を摂食できないようにすることにより、誘引効果を高め、捕獲頭数の増加を図る。

4. 現状の課題と今後の対応

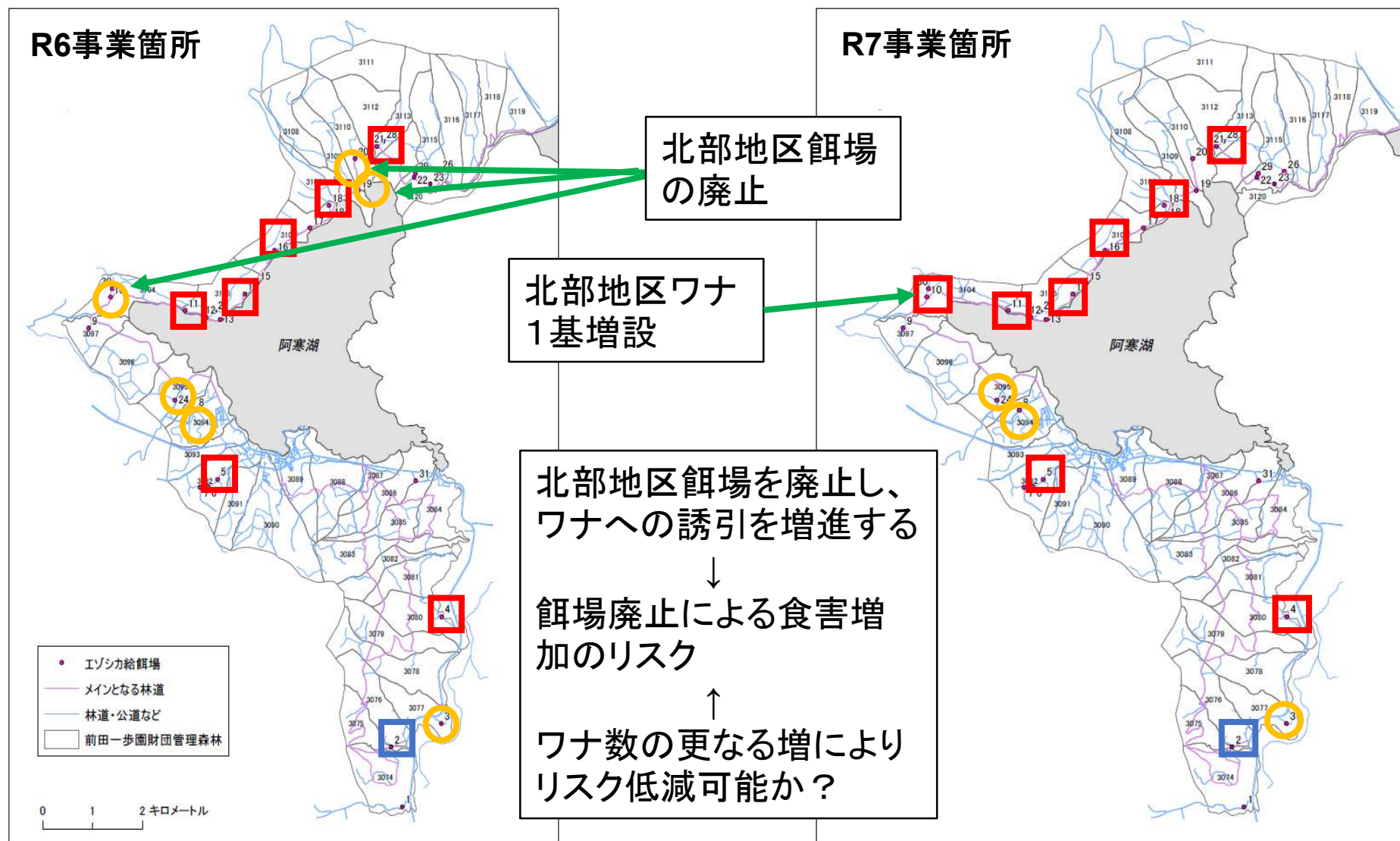
被害防止対策(給餌・ワナ事業量)



H28年度~R1年度は、囲いワナ2基で対応し、ワナ設置箇所以外は給餌で被害を防止してきたが、エゾシカ出没の増加に合わせH5年度までに6基にワナ数増設。

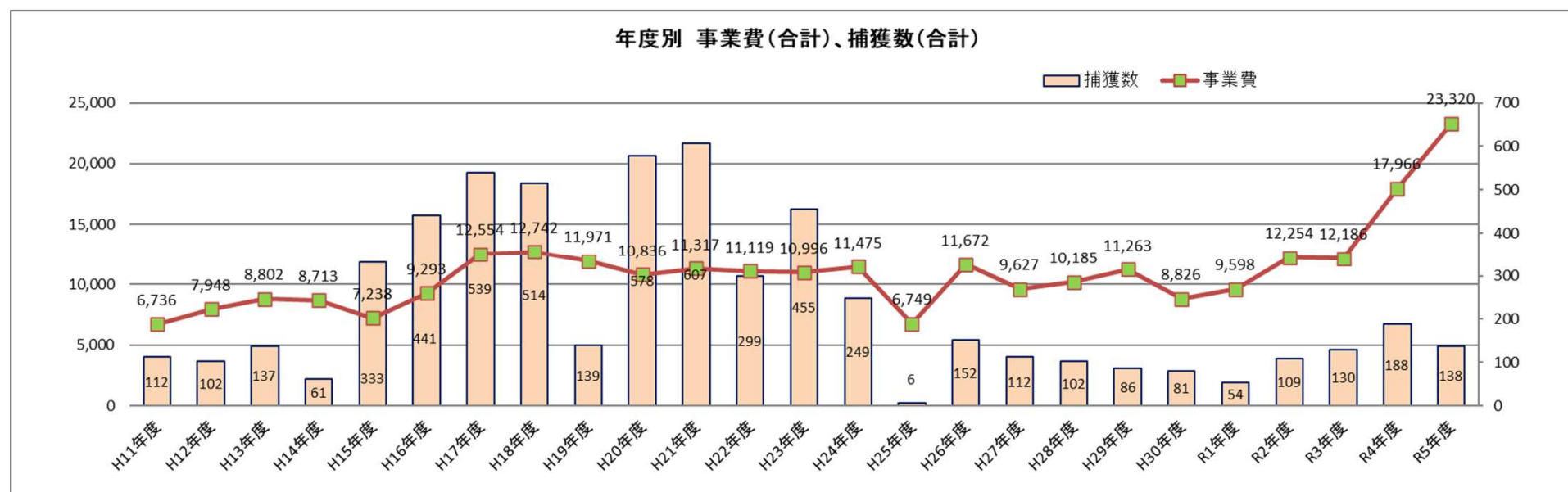
4. 現状の課題と今後の対応

R7年度被害防止対策



4. 現状の課題と今後の対応

被害防止対策(対策費用)



H11(1999)年度からR5(2023)年度まで、25年間対策事業を実施。これまでの捕獲数は、5,724頭。

事業費は、275,386千円(内補助金等 34,693千円)。

直近5年間の年平均は、捕獲頭数124、事業費15,065千円(2,418千円)。

4. 現状の課題と今後の対応

現状の課題

いまだに抑えられない森林被害（立木の食害）

⇒ このままでは、母樹のない森林になる危機

いまだに抑えられない森林被害（幼樹の食害）

⇒ このままでは、後継樹のない森林になる危機

一組織での対応の限界

⇒ 広域連携による捕獲対応が必要（国・道・民間）